



# 貧困理論と貧困対策に関する研究

健康福祉学部 人間福祉学科  
講師 志賀 信夫（しが のぶお）

博士（社会学）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 2518号室  
Tel 0848 - 60 - 1194  
E-mail nobu-shiga@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 社会政策、貧困問題、子どもの貧困問題、子ども・家庭福祉、公的扶助制度

キーワード： 貧困問題、社会的排除・社会的包摂、社会政策

## ● 現在の研究について

貧困問題に関する研究を行っている。本研究を行うにあたっては、特に理論と実践のつながりを意識している。

貧困問題に対応する取り組みや制度・政策を考える際には、そもそも「貧困とはなにか」という問いが重要である。なぜならば、貧困をどのように理解するのかによって、取り組みの方法や制度・政策のかたちや規模が変わるからである。

貧困とは、しばしば「お金がないこと」であると理解されるが、果たしてそうした単純な理解だけでいいのだろうか、という問いを追究するのが本研究の課題でもある。

貧困とは、この社会において、許容できないほどの厳しい生活状態を指すものであるが、この生活状態をどのような水準から理解するのかということが本研究の核心である。例えば、動物としての生存を維持できるギリギリのラインを下回る生活状態からそれを理解するのか、あるいは人間としての尊厳を維持できる生活状態を基準としてそれを下回る生活水準から理解するのか、ということである。どのような貧困理解に立つかによって、貧困対策の効果測定のある方も変化する。

私は、以上のような研究を行うだけでなく、研究から得られた知見を現場の実践者や政策担当者と共に共有し、社会や地域にどのように還元できるのかについても、これまでに追究してきた。

## ● 今後進めていきたい研究について

貧困問題は、この社会のどこでも生じうるといふ社会普遍的な問題であるということは先行研究のなかですでに明らかにされている。しかし、それが「資本 - 賃労働関係」から生じる社会構造上の問題であるということを論じ、実証した先行研究はほとんどない。今後、貧困問題が社会構造上、必然的に生じる問題であるということを正面から論じる予定である。

## ● 地域・社会と連携して進めたい内容

貧困問題は、社会普遍的な問題であることはすで実証されている。したがって、貧困問題には、社会的な対応が必要である。これは貧困問題に対し、地域だけで完結した対応が不可能であるということを示している。

だが、地域の役割は重要である。何らかの生活問題に直面してる人びとが居住しているのは地域だからである。

今後は、地域の実践者とともに、「地域でできること／できないこと」を整理していき、「できないこと」については、地域から社会全体に対して、社会全体で行う何らかの取り組みが必要であるというメッセージを提示していくことができればと考えている。これは地域福祉を地域住民とともに再検討するということでもある。

## ● これまでの連携実績

- (1) 宮崎県日向市子どもの未来応援会議において、子どもの貧困対策に関する計画策定に取り組んだ（2016 - 現在）。
- (2) 平成 30 年度長崎県保育士等キャリアアップ研修会講師。